

令和 3 年度市政懇談会における第六次諏訪市総合計画についての意見

6 月から 7 月にかけて計 6 回市政懇談会を開催し、第六次諏訪市総合計画の概要について参加した市民のみなさんに説明いたしました。いただいた内容を要約整理しましたので、今後の検討に際して参考にさせていただければと存じます。

●しごと創出について

- ・生産労働人口が減少。子供の人数や出生率を見ると、人材確保は更に困難になっていく。
- ・特に農業は外国人実習生を受け入れていかなければやっていけない。
- ・工程自動化も有効的だが、外国人人材の採用も選択肢の一つ。
- ・外国人を受け入れるため、彼らが住みやすいまちにしていくことも必要かと思う。
 - ➔産業競争力維持には労働力確保が必要。人口減が避けられない状況下においては、多様な人材確保という視点が必要。
- ・今はインターネットが普及しているので、どこでも仕事ができる。
- ・別荘地は周辺環境が不便。街中の空き家を活用し、サテライトオフィスを誘致すれば、定住する若者を呼び込めるのではないか。
- ・人が増えれば税収も増え活気も出てくる。
- ・家を建てるにあたり、(土地代が安い) 市外が有利なのは事実。しかし、諏訪市で子育てしたい人の希望がかなうまちになってもらいたいと思う。
 - ➔ワーケーションやテレワークといった、新たな時代への対応をしていく必要性
 - ➔地代の差を挽回できるような、便利さ等の強みを生かしたアピールが必要。

●自然の魅力について

- ・諏訪湖は諏訪の代表的な魅力。もっとキレイに魅力あるものにしたほうがいい。
- ・ワカサギが大量死してしまったことはマイナスイメージ。
- ・夏になるとヒシが景観を損ねている。
 - ➔諏訪湖は代表的な魅力であるからこそ、有効活用するための手法を工夫する必要がある。
- ・柳並線が開通して諏訪湖が直接見えるようになり非常に良いが、駅は東側しか改札がない。
 - ➔インフラ整備も、関連を持たせた整備をする必要がある。
- ・水辺のまちである諏訪市で、水辺をどれだけみんなが楽しめるか。
- ・諏訪湖だけではなく、諏訪湖に流入する川、その周辺の環境まで見る必要がある。
 - ➔資源は保全するという考えと活用するという考えが必要。
 - ➔自然資源は幅広く活用していく必要がある。

●生活基盤強化への視点

- ・生活基盤を充実させるには、産業を育成し住民が収入を得ることが重要。
- ・工場は少なからず自然への影響がある。
- ・諏訪には諏訪湖や霧ヶ峰という観光資源が多く、それを目当てに観光客が来る。
- ・しかし、現実には我々は日常生活を営んでいる。
- ・観光客が諏訪湖周の遊歩道を自転車で走り回っているという問題もあるが、観光客誘客しているから仕方ないという感覚がある。
- ・日常生活している人がいて、その中に観光客をどうやって取り込んでいくか。
- ・観光客も住民もお互い意識していかななくてはいけない。
 - しごと創出が生活基盤充実につながるという考えが必要。
 - 外から見て魅力的なまち、住民から見ても魅力的なまちであるという考え。
 - 住民も観光客も互いに意識できる環境づくりには、関係人口の構築が必要か。
 - 経済、社会、環境のバランスをとることが必要。

●多様性に関する視点

- ・諏訪市の魅力の1つは市長が女性ということ。
- ・ダイバーシティは重要な視点。人を呼び込むにしても、女性、若者、外国人など多くの価値観を入れて欲しい。
- ・現実的には自治会の区長はほとんど男性。女性が少ないことには事情があると思うが、色々な施策を打っていくと良い。
 - 多様な人材活躍の重要性とその実現のための施策の必要性

●インフラに関連する視点

- ・電線の地中化が遅れている。インフラ、環境、防災に関係してくる。
- ・具体策を示すとわかりやすい。電線地中化について具体策も教えて欲しい。
 - 具体的事業は、方針実行のための手法であることから計画上に記載しない。

●芸術振興についての視点

- ・文化芸術の振興が必要だと思う。
- ・生涯学習が文化芸術の中に入るのはわかるがその逆は違うのでは。検討してほしい。
- ・経済や観光は文化があってこそ魅力が出る。
 - 生涯学習の中に関連されていた。広く分野を考えていくと生涯学習に分類される。
 - しかしながら、よりわかりやすくすることから生涯学習・文化芸術に名称を変更する。

●その他

- ・いろいろなことをたくさんやることは予算の面からも難しい。メリハリをつけてもらいたい。